

## エシカルエッセイ（「私が見つけたエシカル」）

ミャンマーの雑貨屋さんで見つけたエシカル

大久保 明日奈

今年のゴールデンウィークにミャンマーを訪問しました。タイやベトナム、マレーシアなど他の東南アジアの国々と比べると日本人にとってはあまり馴染みのない国かもしれませんが、ミャンマーは国民の大半が仏教徒であり、かつ相当な親日国です。アジアのラストフロンティアとも呼ばれているこの国には近年日系企業も徐々に進出し始め、5年ほど前と比べると最大の都市であるヤンゴンではネット環境がかなり改善され、クレジットカードが使用できるお店も格段に増えたそうです。私は今回初めての訪問だったのでミャンマーとヤンゴンの「Before-After」は肌感覚では分からなかったのですが、昔から何度もミャンマーを訪れている人とお話をしたところ、「昔とは比べ物にならないほどヤンゴンは快適に滞在できるようになった」とその方は仰っていました。また、ミャンマーには多くの観光資源があり、世界三大仏教遺跡とも言われるバガン遺跡やイギリス植民地時代に避暑地として栄えたインレー湖、パワースポットとしても有名なゴールデンロック（今にも落ちそうな金色な岩が崖の端に乗っています！）など、古くから根付く文化や歴史を垣間見ることのできる素晴らしい場所が沢山あります。私は今回の滞在ではヤンゴンとバガン遺跡のみ訪れましたが、古いものと新しいものが交差し、人の生きる力を感じることのできるミャンマーの素晴らしさの一端に触れることが出来た気がします。今回このエッセイでは、ミャンマー滞在で私が見つけたエシカルなお店と商品についてご紹介したいと思います。

ヤンゴンの中心部に Hla Day Myanmar というお洒落な雑貨屋さんがあり、Lonely Planet にも掲載されるなど、密かに人気になっています。ドイツ人のデザイナーがオープンさせたお店で、このお店で扱う製品はミャンマー人の職人によって作られているそうです。このお店は、技術を持ちながらも十分な収入は無いミャンマーの職人達を支援し、かつ私たち一般消費者にとっても魅力的でハイセンスな雑貨を売ることによってサステイナブルなビジネスを展開することを目標にしています。Hla Day Myanmar が職人と一緒にブレインストーミングや製品の試作を行い、実際に商品を購入した顧客からのフィードバックを踏まえて商品を改善することにより、従来作られていたものよりも魅力的な商品にすることに成功しているようです。また、全ての商品はミャンマー人により作られており、素材も現地のものを使用することをポリシーに掲げています。このような説明を聞くと、「コンセプトは素敵だけど、本当に買いたいと思える商品なんてないのでは？」と思われる方もいらっしゃるかもしれませんが、実際お店に足を運ぶと、カラフルで可愛いデザインの雑

貨が沢山売っていることに驚くはずですが、私も実際にお店に行ったのですが、現地のテキスタイルを使用した洋服やキッチン用具など、可愛い雑貨が売っていてついつい長い時間滞在してしまいました。



購入した商品で特に素敵だなと感じたのが、カラフルで美しい民族衣装であるロンジーを再利用したポストカードです。ミャンマーのシンボルであるパゴダ（仏塔）や川下りをする人たちなど、ミャンマーの文化や伝統にちなんだデザインの切り絵がされており、その裏から古いロンジーの生地が貼り付けられているというものです。実は、この切り絵を切る人たちは現地の障がい者の方たちだそうで、仕事を見つけることが難しい方たちの収入源を作ることを意図しているようです。私は購入したときにはそのことは知らなかったのですが、デザインとロンジーの色調の美しさが気に入り、現地の物価と比較すると少々高い価格ではあったものの、いくつも購入しました。購入した後に封を開けると製造秘話として先ほどの内容が書かれており、驚いたことを覚えています。



Hla Dayとはミャンマー語で「美しい」という意味だそうです。伝統も大事にしながら、消費者にとっても魅力的な商品をエシカルな方法で作る。簡単に実現できることではありませんが、ミャンマーの小さな雑貨屋さんでその答えのひとつを見つけることができたような気がします。